

一般社団法人 SAVE IWATE

活動報告・活動計画

SAVE IWATE は、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災直後の 3 月 13 日に立ち上りました。これまで、みなさまのお力に支えられて活動を続けることができていますことに、心より感謝を申し上げます。

震災から 5 年が経過し、被災地の復興も徐々に進んではいますが、被災者の方々が安心して暮らせる状況には至っていません。

私たちは、被災者の方々と共に笑って暮らせるその日まで、活動を継続していきます。みなさまの末永いご支援をどうぞよろしくお願ひします。

2016 年 6 月

一般社団法人 SAVE IWATE
理事長 寺井 良夫
岩手県盛岡市中野一丁目 10-31
019-601-6482
info@saveiwate.jp
<https://sviwate.wordpress.com/>

2015年度 一般社団法人 SAVE IWATE 活動報告

① もりおか復興支援センター 総務チーム

1. 事業の目的

もりおか復興支援センターの運営に係る総務・経理事務を行う。

2. 運営体制

- (1) リーダー (1名)
- (2) スタッフ (2名)

3. 活動の内容

- ・センター業務に係る総務・経理事務を行う。
- ・センター業務に係る出勤日の調整管理を行う。
- ・受付業務の職員ローテーションの調整を行う。
- ・内部会議の準備・調整を行う。
- ・外部からの問い合わせ対応を行う。
- ・センターにおける情報・交流コーナーの運営調整を行う。
- ・報告書作成、取りまとめを行う。

4. 成果と今後の課題

- ・担当者の変更等により一時滞りが生じたが、次年度に向けた体制と環境を整備することができた。
- ・震災から5周年を迎えるにあたり、他団体、外部からの問い合わせや取材、訪問が増えた。今後更に速やかな対応ができるよう、資料整備に取りかかる必要がある。

② もりおか復興支援センター 生活相談支援チーム

1. 事業の目的

盛岡に避難している被災者の生活上（食・住・職・お金・健康等）の不安や困難等を、戸別訪問、窓口相談、電話相談等を通じて把握し、一人ひとりに寄り添いながら具体的な解決を支援する。必要に応じて、各自治体、他の事業団体や各専門機関、及び地域住民等と連携して解決できるように支援する。

こうした相談・支援活動を通じて、地元帰還を通じての生活再建及び盛岡での生活再建を援助し、一人ひとりが希望を持って生きていくことができる条件と地域社会づくりに貢献する。

2. 運営体制

- (1) リーダー (1名)
- (2) 相談員 (6名)

3. 活動の内容

- (1) 全戸訪問、窓口・電話相談

・自宅再建を果たした世帯を含めた全戸訪問（約650世帯）、みなし仮設や民間賃貸住宅等にお住まいの世帯への重点訪問（約400弱世帯）を、定期的に循環して行った（年間で3,321件の訪問）。なかなか会えない世帯には、電話での安否・近況確認をするとともに、在宅の日時を確認して、再訪問した。

心身や社会経済状態に不安や困難を抱える世帯に対しては、パーソナルな支援を強めた。保健師・民生委員・地域包括相談員等と同行訪問をして状況を把握して、介護サービス利用や医療機関へのつなぎの支援、生活保護申請や滞納税金相談等への同行、医療費助成や被災者向け医療費減免制度、障害年金取得情報等の提供と取得支援などを行い、行政や病院との折衝をサポートした。

また、債務処理や生活困窮、就労困難など複合的困難を抱える被災者を「盛岡市くらしの相談支援室」につなぐなど、必要に応じて専門機関や他の支援団体と連携して解決をサポートした。

（2）困窮被災者への食糧・物資支援

・生活困窮世帯には、食料品・生活用品を提供し、奨学金の取得、就活、住まい、債務整理等の支援を通じて生活の自立を援助した（53世帯439件）。

このような活動に加えて、発足した「盛岡市くらしの相談支援室」や「フードバンク岩手」と連携することで、被災者の緊急的な困窮に対応する体制が生まれ、これによって独自の支援を徐々に減らすことができ、年度末にはほぼ食糧・物資支援を終了した。

*資料・物資支援者へのお礼の手紙を参照

（3）独居高齢者・日中独居高齢者、高齢者のみの世帯、及びアルコール依存の疑われる中年独居男性や閉じこもり気味の中年独居男性などのリストを保健師や民生委員に提供し、訪問・傾聴・見守りをお願いした。問題を抱えた世帯については、情報共有をしつつ、連携して解決を支援した。

（4）社会的孤立を防ぎ、市民や地域とのつながりをサポート。

・畑作業（フードファーム）への参加による自己有用感（収穫物の被災困窮者への提供）の獲得、居場所や生きがいづくり、リフレッシュ等を支援。

・復興雑巾、お茶会、カラオケサークルなどへの参加を促し、孤立感の払しょく、市民との交流等を支援。

・地域のサークルやボランティア活動を紹介し、地域での新たな人とのつながり、社会参加を支援。

（5）帰還支援

・宮城、福島など、みなし仮設の終了が始まっている、あるいは来年3月には終了予定の被災者に、住居確保や引越し等に関わる支援情報の提供とていねいな説明につとめ、帰還か定住かにかかわらず、よりよい生活再建につながるように支援した。中には、地元行政から情報が届いていなかった被災世帯もあった。

・サロンチームが企画した沿岸各地への「ふるさとバス」を利用して、地元の行政機関、社協、

生活支援相談機関等との被災者支援のネットワークづくりに力を入れた。「ふるさとバス」事業を通じて、なぜ帰還を迷っているのか、帰還する意思があってもそれを阻んでいる条件は何か等についての情報共有が進んだ。

さらに、不安や困難を抱えた被災者が帰還してからの見守り・相談を社協等に依頼する、逆に沿岸から盛岡に移転してくる同様の被災者の情報を社協がセンターに提供するという、本人同意の下で、内陸と沿岸の支援団体が情報を共有し合うという体制を初步的ながらつくりあげることができた。

- ・震災と津波だけでなく原発事故という災害を被った福島県の被災者に、放射線の健康影響や食の安全、避難指示解除と復興・まちづくりの現状等についての情報を提供し、帰還・定住・移住を判断する材料にしていただく活動を行った。

- ・地元での災害公営住宅入居を希望する人に、引越し補助金等の支援制度及び保証人等の入居条件を周知するとともに、条例の運用見直しによる入居条件の緩和を行政に働きかけた。

(6) 内陸災害公営住宅建設を巡る意向調査への協力を通じた住宅再建支援

岩手県の「内陸災害公営住宅整備のための意向調査」が今年の1月末から始まったが、県が想定する調査対象世帯が、みなしふ設と一部の民間賃貸や親族住まいに限られている事、「意向調査」の説明文がわかりにくいくこと、入居要件が厳しすぎて初めからあきらめる人が出る可能性があること、などを踏まえて、センター登録者で内陸災害公営住宅を希望する可能性のある世帯をリストアップし、訪問及び電話での「意向調査」の説明をした。内陸災害公営住宅が、今後の住まいの重要な選択肢と考えている被災者には、必ずその意向を県に伝えるように働きかけた。「意向調査」が届いていない世帯はリストアップして県の担当課に提出し、郵送をお願いした。

県の内陸災害公営住宅入居可能な世帯の想定とセンターのそれとでは違いがあることを踏まえ、今後入居要件の緩和を含めて、県の担当課への継続した働きかけが必要になる（県の建築住宅課の資料参照）。

(7) 「一人ひとりが大事にされる新たな災害復興法」づくりへの協力

被災者の生活支援相談に携わる中で、現在の被災者支援の法制度に欠陥があることを痛感し、復興庁にも改善（法改正を含む）の要望を提出してきたが何も進んでいない。

そういう中で、宮城の被災者支援団体や岩手、宮城、福島の弁護士との出会いがあり、上記の新法づくりへの協働、協力をやってきた。

被災者からこれまで聞いた様々な不満や要望を伝えるとともに、盛岡で開催されたフォーラムではセンターに登録している二人の被災者に、直接その切実な要望を発表していただいた。

(8) 相談員のスキルアップのための各種研修会に参加した。

4. 成果と今後の課題

失業や心身の疾患、借り入れの支払いや税金滞納等による生活困窮、要介護世帯など被災者の抱える様々な困難について、行政や専門相談機関、保健師・地域包括相談員、F P・行政書士・弁護士、社協や盛岡市くらしの相談支援室を始め他の支援団体へのつなぎ・情報を共有、

助言をいただくなどを通じて、複合的な困難を抱えている方を含め、解決を支援することができた。

このような経験を蓄積することで、どんな相談はどこにつなぐのが解決を支援する上で最適なのかを学ぶとともに、地域全体で被災者を見守り、包括的にケアをする支援相談のネットワークづくりに活かしていくことが今後の課題の一つと思う。

・沿岸での災害公営住宅の建設も徐々に進み、盛岡を含む内陸に災害公営住宅ができる可能性も強くなっている。

こうしたなかで、宮城・福島に続き、岩手県沿岸の宮古市が来年3月～8月での仮設住宅・みなしふ設住宅の終了を発表（特定延長はある）したように、盛岡に避難されている被災者の生活再建の土台となる恒久住宅確保という課題が今後焦点になってくる。

帰還か定住か、あるいはどのような住まいを選ぶのかは、被災者の社会経済状態も影響するだろうし、また、今かかえているさまざま困難にも規定されるだろう。

私たちは一人ひとりに寄り添った支援をいっそう強め、その困難の解決を助け、被災者が余儀なく追い出されたりしないように、災害公営住宅入居を含め、住居の選択が被災者にとっての生活再建と自立につながるように支援することが求められる。

・そのためにも、被災者支援制度にかかる情報提供と丁寧な説明、徹底した個別相談が必要になる。

県の「暮らしの安心ガイドブック」や沿岸市町村の文書に明記されている支援制度やその受益対象要件、あるいは災害公営住宅の入居要件の字面だけにとらわれず、一人ひとりの被災者の当時の被災状況と今の生活や世帯状況を正確に詳しく聞き取り、それに基づいて、支援制度の趣旨を活かした柔軟な運用を行政に要望していくことが必要になっている。一人でも多く被災者に帰還してほしい行政もまた姿勢が変化してきている。

私たちもこれまでの既成の知識にとよったり、経験を絶対化することなく、行政や専門機関との直接の確認と折衝を踏まえた、きめ細かい支援活動が求められる。

③ もりおか復興支援センター サークル・サロンチーム

1. 事業の目的

被災者同士又は被災者と市民が交流を図れるような催しの企画運営を行う。サークル・サロン等の活動を通し、被災者の生活状況や心身の健康状態を把握し、必要に応じた専門機関や関係団体を紹介する。被災者自身のボランティア活動への参加等、社会参加の機会を模索しながら、被災者の状況やニーズに沿ったサークル・サロンの企画運営を行う。

2. 運営体制

- (1) リーダー（1名）
- (2) スタッフ：（2名）
- (3) コア・ボランティア：（6名）

3. 活動の内容

●サークル・サロン事業

1. 定例開催

○定例お茶っこ飲み会

【実施日時】毎週土曜日 10：30～11：30

【実施会場】もりおか復興支援センター

【実施回数】51回

【のべ参加者数】719人

【趣旨・概要】

避難者同士が集まってお茶を飲み、茶菓子を食べながら談話し、近況や困り事、沿岸への思いを共有する場。

【成果・課題】

平成27年度途中の9月から毎月第4火曜日に、手作りおやつを参加者と作るという試みを行ったところ、初めて参加する方、数年ぶりに参加する方など、参加者が増加した。

手作りおやつの品目を、「なべやき」「きらズ団子」「ひゅうず」など沿岸の伝統おやつにしたこともあり、避難者の興味を引き出し、参加を促す結果になった。参加者の家ごとに製法が違うことで話のタネになり、会話を引き出す要素ともなった。

ボランティアも平成26年度から継続的に参加している。9月からはボランティアからの発案で、避難者とボランティアによって運営される「もりおか縛の会」が発足、盛岡市近郊の公共施設見学2回、日帰り温泉旅行1回を行っている。

○地域別お茶っこ飲み会

地域①【釜石市・山田町・宮古市・岩泉町・田野畠村・普代村・野田村
・久慈市・洋野町・盛岡市・滝沢市・矢巾町・紫波町】

地域②【大船渡市・陸前高田市・宮城県・福島県】

地域③【大槌町】

【実施日時】①毎月第2木曜日 ②毎月第3木曜日 ④毎月第4木曜日

【実施会場】もりおか復興支援センター

【実施回数】①・②・③各12回で合計36回

【のべ参加者数】

①106人 ②95人 ③296人 総計497人

【趣旨・概要】

同地区、近隣地区出身の避難者同士が集まつて

お茶を飲み、茶菓子を食べながら談話し、近況や困り事、故郷への思いを共有する場。

【成果・課題】

参加者は昨年度より減少傾向にある。一方で、



東日本大震災から4年経つ中でも、初めて参加される避難者が数名いらした。今年度から盛岡に引っ越してきた方の他、数年前から盛岡にいながらも、今まで積極的に外出できず、友人の誘いなどで初めて参加されたという方も多い。盛岡市内の避難者同士のつながりを築き、こもりがちだった避難者が社会参加する第一歩としてお茶っこ飲み会の場が機能している。

○手芸サークル

【実施日時】毎週火曜日～土曜日 10：00～15：00

【実施会場】もりおか復興支援センター

【実施回数】246回

【のべ参加者数】1227人

【のべボランティア数】198人

【趣旨・概要】

古着、古い反物を使い、個々に自由に作品作りを行う。材料の用意のため、古着の解体、ほぐしを分担して行っている。

【成果・課題】

参加者のほとんどが高齢者で、火曜日から土曜日まで週5日間、定時開催している手芸サークルに参加することは生活リズムの維持に役立っている。

また、サークル外の避難者にとっても「當時、もりおか復興支援センターに知り合いがいる」という状況はセンターに訪れる理由になり、サークル・サロンの無い日にふらりと訪れては手芸サークルの参加者たちと近況を伝えあう場となっている。

○囲碁・将棋サークル

【実施日時】毎週水曜日 10：00～16：00

毎週土曜日 10：30～11：30

【実施会場】もりおか復興支援センター

【実施回数】100回

【のべ参加者数】426人

【のべボランティア数】282人

【趣旨・概要】

囲碁を趣味とする避難者が集まる碁会所的なサークル。当初は将棋を打つ人もいたが、今は碁のみの活動となっている。

【成果・課題】

震災4年目を迎える、参加者の高齢化が進んだ結果、入院やリハビリでサークルに参加できない方が増え、避難者で継続的に参加する方は2人となった。一方で参加者が外部の碁会所で得た友人や、報道でセンター囲碁サークルの存在を知った一般市民の参加者が増え、一般市民の方が割合として多くなっている。そもそも避難者、市民、ボランティア3者が分け隔てなく活動してきたサークルであり、避難者と一般市民との交流の場として機能。前述のもりおか縦の会の中心メンバーも囲碁サークルの避難者が担っている。

○折り紙サークル

【実施日時】毎月第2火曜日 10：00

【実施会場】もりおか復興支援センター

【実施回数】12回

【のべ参加者数】56人

【協力団体】日本折り紙協会岩手支部さくら会

【趣旨・概要】さくら会から講師を派遣してもらい、参加者が毎月新しい折り紙を習う。

【成果・課題】

平成26年度にさくら会講師の資格を取得した参加者がリーダーとなり、平成27年度からはほぼ自主的な活動を行うサークルとして成立している。



○カラオケサークル

【実施日時】毎月第4木曜日 13：00～16：00

【実施会場】市内大通りのカラオケ店

【実施回数】12回

【のべ参加者数】224人

【のべボランティア数】13人

【趣旨・概要】

カラオケ店で歌い、おしゃべりして、避難者同士が多人数で楽しむ場。

【成果・課題】

平成26年度から自主的な活動に移行すべく、参加者の取りまとめを参加者の代表者3名に行ってもらった。会場の予約、部屋分けなどはセンタースタッフが行っていて完全な自主活動にはなっていない。平成27年度には会場予約、部屋分けも参加者で行っていただくことを試みたが、参加者サイドの運営体制を整えることができず、見送りとなつた。ただ、センタースタッフが関わることで、参加者の近況や、サークル内の様子を知る機会となっている面もある。

○学習サロン

【実施日時】毎週日曜日 13：00～15：00

【実施会場】もりおか復興支援センター

【実施回数】46回

【のべ参加者数】268人

【のべボランティア数】256人

【趣旨・概要】

小学生～高校生までの避難者の子弟の勉強をボランティア講師が見て、相談に応じる学習

支援活動。

【成果・課題】

平成27年度を持って活動を終了した。

平成28年度からはもりおか復興支援センターに一部の教材を残し、これまでの参加児童・生徒が自習する場として提供できるようにしてある。

※学習支援キャンプ 夏季 8月1日（土）—8月2日（土）

冬季 1月10日（日）—1月11日（月）

2. 不定期開催

○ふくしま交流サロン

【実施日時】 10月4日（日）・11月5日（木）

【実施会場】 もりおか復興支援センター

【実施回数】 5回

【のべ参加者数】 29人

【協力団体】 盛岡大学・岩手看護協会

【趣旨・概要】

福島県出身の避難者同士が交流、情報交換をする場。前年度にふくしまマザーズサロンとして、小さな子供連れの福島県出身避難者が交流する場を設けていたが、その対象を拡大した。

【成果・課題】

「小さな子供連れ」という募集対象に絞らなくなつたものの、参加者はほとんど小さな子供連れの母親となった。

ふくしま連携復興センターが平成27年度から開設した、福島県外に避難されている方を対象とした相談窓口「ふくしまの今とつながる相談室 toiro」について、tiroの相談員から直接説明をして頂いた。サロン自体は平成27年度で終了した。

○写真倶楽部

【実施日時】 不定期

【実施会場】 もりおか復興支援センター

【実施回数】 9回（センターでの会合のみ）

【のべ参加者数】 48人

【協力団体】 市民ボランティア2名

【趣旨・概要】

写真を趣味とする避難者のサークル。月ごとに決まったテーマに沿った写真を撮影し、センターでの活動日に持ち寄って互いに品評、各自1点ずつ選んでセンター内に展示する。

【成果・課題】

ボランティアを取りまとめ役とするものの、参加者とボランティアのみで自主的な活動ができている。12月から3か月をかけて参加者一人一人の作品を展示する個展をセンターで

行った。

3. 単独開催

○もりおか復興支援センターサークル作品展示会

【実施日時】 11月19日（木）～11月22日（日）

【実施会場】 盛岡市西部公民館

【のべ参加者数】 441人

【受付スタッフ】

手芸サークルから6名、写真倶楽部から講師
含め3名、一般ボランティア2名

【協力団体】 盛岡市西武公民館

【趣旨・概要】

もりおか復興支援センターで創作活動をする3
サークルの作品を展示、広く盛岡市民にセンターの活動をお知らせするとともに、一般市民
との交流の機会とする。



【成果・課題】

受付スタッフとして会場にいたサークルメンバーが観覧に来た一般市民と交流を持つこと
ができた。センターの写真倶楽部と西部公民館の既存の写真サークルとで接触を持てた、手
芸サークルのメンバーが多くの女性観覧者とファッションや布小物のことでの会話を楽しんだ
など、共通の趣味をもって避難者と盛岡市民が交流を持てたことは意義深い。

避難者であることを前面に出しての展示ではなかったためか、センターの活動について周
知、理解を広める効果は十分ではなかった。

○もりおか復興支援センター前花壇植栽

【実施日時】 平成27年6月4日（木）10：30～12：00

【実施会場】 もりおか復興支援センター

【参加者数】 7人

【協力団体】 盛岡市国体推進局

【趣旨・概要】

陸前高田市森の前地区の花畠からお預かりした花苗に、希望郷いわて国体推奨花を加えて
もりおか復興支援センター前の花壇に植栽、国体に向けて全国からの復興支援への感謝の意
を込めるとともに、盛岡市民への風化防止の呼びかけとしても意義づける。

【成果・課題】

陸前高田市出身の避難者を中心に植え方を行うことで地元とのつながりを感じていただく
機会にもなった。

○和紙ちぎり絵製作会

【実施日時】 平成27年6月21日（日）13：00～15：00

【実施会場】 もりおか復興支援センター

【参加者数】 7人

【協力団体】 和紙ちぎり絵しゅんこう認定講師 佐野良子

【趣旨・概要】

『東北復興支援 いわてこども和紙ちぎり絵展』に出展するため、避難者の子どもを対象にちぎり絵の製作を行う。

【成果・課題】

学習サロン参加の子どもたちを中心に、ふくしまサロンに参加している避難者家族などが参加。子ども同士の交流の場として機能した。

○和紙ちぎり絵講習会

【実施日時】 平成28年2月26日（金）

【実施会場】 もりおか復興支援センター

【参加者数】 5人

【協力団体】 和紙ちぎり絵しゅんこう認定講師 佐野良子

【趣旨・概要】

大人を主な対象としたちぎり絵講座。

【成果・課題】

手芸サークル・折り紙サークルなど、既存の創作サークルに参加していなかった方、参加していたが最近来ていなかった方が参加。センターから足の遠ざかっていた方々を集めて、交流を持つ機会とすることことができた。

4. 他団体との協力事業

○「さんさ踊りとふっちストラップ」制作会

【主催】 盛岡市国体推進局

【実施日時】 不定期

【実施会場】 もりおか復興支援センター（国体推進局会議室も利用）

【実施回数】 10回

【のべ参加者数】 39人

【趣旨・概要】

平成28年度の希望郷いわて国体にて、盛岡会場での選手・スタッフへの記念品となる「とふっちストラップ」を作成。

【成果・課題】

セレモニーとして避難者から盛岡市長に完成品を手渡しするなど、東日本大震災復興支援への返礼として象徴的な活動となった。

○浜のお母さん料理教室

【主催】 盛岡市西部公民館

【実施日時】 平成27年10月9日



【実施会場】盛岡市西部公民館

【参加者数】16人

【講師（避難者）】5名

【趣旨・概要】

避難者が沿岸の家庭料理を盛岡市民に教えることで、避難者と市民との交流と相互理解を深める。手芸サークルの参加者が講師となった。

【成果・課題】

平成25年度から2年連続して「漁師めし講座」として沿岸の料理を教える催しを西部公民館で行っていたため、認知度が高く、定員いっぱいの受講者を得た。沿岸出身の講師と盛岡の受講者とで会話を楽しみながらの講座となり、十分に沿岸の文化を伝え、交流できる場として機能した。

○ ドコモ料理教室

【主催】株NTT ドコモ

【実施日時】平成27年11月27日（金）

【実施会場】岩手県民情報交流センターイーナ

【参加者数】10人7

【趣旨・概要】

NTT ドコモの社会貢献活動として行われた料理教室。NTT ドコモの動画配信サービスによる上映会も付随する。

【成果・課題】

日頃、センターのサークル・サロンに参加していない方々の参加が目立った。活動内容や会場が変わることで新味が生まれ、新しい関心を呼び込める証左となった。

④ もりおか復興支援センター 視察・送迎・情報収集チーム

1. 事業の目的

沿岸被災地で活動するボランティアの支援、及び被災地の見学を希望する市民と首都圏からの企業・団体等の送迎を実施することで、被災地復興の後方支援を行う。

2. 運営体制

(1) リーダー（1名）

(2) スタッフ（2名）

3. 活動の内容

(1) 東日本大震災ボランティアに関する情報提供、マッチング及び送迎

①ボランティアの活動支援について

・被災地では、復興が進む中、地域活動等にボランティアニーズがありました。ボランティアにはそういった被災地域の現状を知ってもらった上で活動に参加して頂いた。

（漁業・農業支援と子育て支援）

② 被災地へのボランティア等送迎について

- ・被災地の視察や交流活動と組み合わせた、盛岡市民や首都圏の企業、団体等のボランティア活動の送迎を行いました。

③ 地域密着型・専門的ボランティアの活動について（被災地域を限定とした活動）

- ・現地での長期活動を希望するボランティアや、長期休暇中の高校生、大学生ボランティアに対して、宿泊を含めたコーディネートを行いました。

(2) 被災地の視察・研修を希望する市民の送迎

- ・被災地の視察や研修を希望する盛岡市の町内会、自治会、企業、学校等、また首都圏の企業や団体に対し、企画と運営のサポートを行いました。
- ・視察や研修に際しては、震災記憶の風化を防止し、身近な防災を意識することのできる企画を提供を行いました。
- ・視察や研修のためのモデルコースや、訪問先の被災状況、復興状況が分かるガイドブックを整備を行いました。

* 参考資料

27年度 ボランティア・沿岸視察参加人数内訳		市民ボランティア・視察等 市町村別送迎			避難者沿岸視察 送迎数		
行き先		ボランティア活動		視察送迎			
		回数	人数	回数	人数	人数	備考
宮古市	宮古市	3	67	5	102	9	9月5日ふるさとバス
	山田町	1	240	1	40	6	9月25日ふるさとバス
	大槌町	6	57	2	52	7	10月23日ふるさとバス
	釜石市	4	48	1	40	7	9月18日ふるさとバス
	大船渡市	0	0	1	40	7	7月25日ふるさとバス
	陸前高田市	5	268	5	82	9	10月30日ふるさとバス
	花巻市		0	0	0	27	内陸避難者交流会
その他	宮古市・釜石市			1	1		
	宮古市・大槌町					36	11月14日沿岸視察研修
	陸前高田市・大船渡市・釜石市					17	12月5日沿岸視察研修
合計		19	680	16	357	125	
		・市民送迎人数合計		1037	・市民送迎回数合計		35
		・避難者送迎合計		125	・避難者送迎回数合計		9
		累計		1162(人)	累計		44(回)

⑤ もりおか復興センター・首都圏マッチングチーム

⑥ 岩手もりおか復興ステーションチーム

1. 事業の目的

首都圏等において被災地支援の意向を持つ団体・企業等と被災地の要望のマッチングを行い、首都圏からの被災地支援を掘り起し、更なる復興推進につなげる。

2. 運営体制

(1) チームリーダー (1名)

(2) スタッフ (4名)

3. 活動の内容

(1) 岩手県内のニーズの把握調査 (首都圏企業に対する企画)

首都圏企業が求める、本業を活かした支援ニーズへの的確な情報提供の為の調査を被災地団体、行政等の協力を得ながら取りまとめる。

(2) 被災地の現状と県内支援活動情報の発信

首都圏で開催される東北復興関連の各種イベント参加

(3) 東北継続支援企業団体が行なう復興支援イベント運営への協力)

4. 活動の成果

・震災から年数が経過し、復興支援活動が少なくなってきた中で新たに復興支援活動を実施する企業への協力（富士通労組等）なども行なうことが出来た。

・企業のCSR部署との関係を構築

・次年度事業へ繋がる機会創出→触れる地球儀被災地へ

5. 今後の課題

・企業の本業を活かす岩手県内のニーズを把握しきれなかった。

・イベント出展、マッチングなど企業等との今後の関係構築。



地方創生フェス 石破大臣和ぐるみのおさけを試飲



雪印メグミルク労組の方々と陸前高田で牡蠣漁ボランティア



岩手復興祈念祭 SAVE IWATE ブース



富士通労組初開催復興支援イベントに協力



岩手郷土芸能祭 in 鎌倉建長寺



復興写真展東京 MX テレビ 銀河プラザ生中継

⑦ 社会事業部 和グルミプロジェクト

1. 事業の目的

和グルミプロジェクトを復興に寄与する産業として確立するよう、原材料の安定確保と複数年貯蔵するための条件整備、殻むき加工作業の効率化、高収益の商品開発、商品知名度の向上、和グルミ食の普及、安定した販路の確保に取り組む。

3. 運営体制

(1) チームリーダー (1名)

(2) スタッフ (6名)

ボランティアが月に1~2回程度参加

むき実作業は野田村の根井地区のおばあさん方に委託

くるみのおさけ（赤武酒造）、ペースト（早野商店）、たれ（浅沼醤油店）は製造委託

3. 活動の内容

売上げの増加に貢献したのは、むき実の大口顧客の取り引きが大きく増加したことと、和グルミソフトクリーム用のペースト、くるみのおさけの販売が増えたことによる。また、くるみの健康食品としての効果が広く知られるようになり、Amazonでの販売額も前年度に比べて増加した。

コスト面では、退職者が3人あったことで、人件費の減となった。人員減は作業の効率化により補っているがやや不足している。

和グルミの原料買い取りは、ほぼ岩手県内の全域から行っており、2015年秋は180人から、12.2トン、金額で307万円となった。

くるみの栽培が盛んな長野県東御市を視察。洋グルミ系統のシナノグルミが大半で、地域の特産物として定着しており、くるみを使った食べ物やお菓子が多数見られた。今後、国産のくるみを普及していくために、交流を続けて行きたいと考えている。

⑧ 社会事業部 かごプロジェクト

1. 事業の目的

被災者の方々の手しごと機会を創出し、生きがいのある暮らしを送っていただくことができるようとする。とくに高齢男性にむいた手しごととして、オニグルミの樹皮を使ったカゴ細工に取り組み、販売による収入支援にもつなげる。

2. 運営体制

- (1) チームリーダー (1名)
- (2) かご製作 (3名)
- (3) パートスタッフ (2名) 樹皮採取等
- (4) ボランティア (2)

3. 活動の内容と成果

年間のカゴ製作個数は約35個。オニグルミの樹皮は、御所ダム（国管理）、早池峰ダム（県管理）、中津川（国管理）等で管理者の許可を得て実施した。ヤマブドウの樹皮は、外山ダム周辺の山林所有者の許可を実施した。

県事業により奥会津の視察を行ったほか、カゴ細工のベテランからの指導を受けた。また、三井物産の助成金により、カゴ細工に必要な道具類の整備を行った。

3人の方々は技術も上達し、カゴ1個で3万円から4万円の商品を製作することができるようになり、毎日のようにカゴ作りを楽しんでいる。



⑨ 社会事業部 復興ぞうきんプロジェクト・紡ぎ組

1. 事業の目的

被災者の方々が元気を出し、前（未来）を向いて立ち上がる小さなきっかけとなることを目的として活動。縫い手さん達が仕上げたぞうきんは、全てが異なる作品であり、思いがあふれるメッセージカードとなることから、材料の提供や購入を通して支援者と縫い手さんの想いが結ばれ、被災者への支援が継続する事業となっており、販売だけでなく情報発信にも力を入れる。

2. 運営体制

- (1) リーダー (1名)
- (2) スタッフ (2名)
- (3) コア・ボランティア (3名)

3. 活動の内容と成果

(1) 紡ぎサロンの開催（復興ぞうきんの買取・包装作業を含む）

●実施回数…合計 60 回

岩手県公会堂(第1・第3水曜日)…24回

鈎屋町新番屋(第1・第3金曜日)…24回

宮古市「くらしネットみやこ」(毎月最終火曜日)…12回

●参加被災者数…のべ 564 名

●第4回紡ぎ組お花見交流会（八幡平・県民の森他）を実施 *参加者 28名

初めて羅針盤参加者にも声をかけたところ、6名が参加された。

(2) 復興ぞうきんの製作・販売

●販売目標 通常版 10,000枚／プチ 3,000組

●販売実績 通常版 6,625枚／プチ 5,221組

通常版の落ち込みが大きかったものの、プチが好評でリピーターも多く、トータルの販売額の落ち込みをかなり抑えることができた。

●大口の販売先（抜粋）

・T女学院小学部母の会 ぶち 600組 *全校児童へ配布

・S会（東京武蔵野市） ぶち 500組 *町内会資源回収のお礼として全戸配布

・S寺（東京都武蔵野市） 通常版 500枚 *法事の手土産用（熨斗付）

・個人（神奈川県） ぶち 420組/通常版 30枚 *教会やコンサートでの販売

・I生協 ぶち 265組/通常版 85枚 *カタログ販売/他生協への斡旋

・個人（鹿児島県） ぶち 200組 *結婚式引き出物

・個人（アルゼンチン） 通常版 200枚 *日系人夏祭りイベントでの販売

発送の際には、復興ぞうきんの活動紹介や材料募集のチラシ、紡ぎ組だより、三陸復興カレンダーのチラシ、「今必要な支援」（SAVE IWATE）チラシ等も入れ、次につなげるための情報発信に努めた。

(3) 復興ぞうきんの材料募集

全国からの材料提供が堅調だったことに加え、材料の在庫状況に応じてタオル（通常版用／プチ用）や糸を購入して送付してくださる支援者の存在で、製作に支障をきたすことなく材料を確保することができた。

(4) つながるサポーター「ZUTTO（ズット）」第2期実施

平成26年度に引き続き、活動支援金（ZUTTOサポーター金）提供者に、1年間毎月紡ぎ組だよりとZUTTO通信を発送する「ZUTTO」を平成27年度も募集した。金額は、初年度の1口￥10,000から￥5,000に変更し、関心が薄れていく中でより多くの方に参加してもらいやすいようにした。支援の意向はありつつも、頻繁にぞうきんを購入したり、材料を送ったりすることが難しいという場合の受け皿になっている様子もうかがわれた。

●申込み実績 127 口／¥635,000 (平成 26 年度…77 口／¥770,000)

期初の目標であった 120 口／¥600,000 を達成することができた。サポーターからは、毎月の ZUTTO 便を楽しみにしているという声をもらうこともあり、定期的にその時々の様子を少しづつでも発信していくことで、被災地・被災者を身近に感じ続けてもらえる手ごたえを感じた。

ZUTTO 便では、三陸復興カレンダー等の商品や 3.11 祈りの灯火等イベントの案内もタイムリーに行えた。さらに年末には、大正蔵とのコラボ企画として ZUTTO オリジナルりんごセットの販売を行い、スタッフからの申し込みも含めて、32 セット販売することができた。

サポーターには高齢者も多く、インターネットを使っていない人に情報を届けられる貴重なツールと位置づけられる。

(5) 首都圏支援者を訪問

岩手県助成金事業「手わざと経営力の磨きあげによる手しごとのビジネス化」の一環で、11 月 10 日～11 日の日程で、志願した縫い手さん 3 名と共に、首都圏チームのサポートの下、千葉と東京の支援者を訪問し、交流を図ったり、実際の活動に参加した。

●訪問／活動先

- ・千葉県流山市・障害者自立支援施設、個人宅、T 病院、T 女学院「

個人の支援者には、被災地の現状を伝える資料を広めてもらったり、復興ぞうきんと大正蔵商品のオリジナルセットを企画・販売してもらうなど、訪問をきっかけとしてより深い支援関係を築くことにつながった。

4. 活動の課題

平成 27 年度から平成 28 年度頭にかけて、2 名の縫い手さんが災害公営住宅の完成を待つて地元に戻った。その他は、盛岡およびその近郊への永住を決めた縫い手さんが多いが、今後に向かた決断・実行がこれからの方もいる。高齢・一人暮らしの方などを中心に、紡ぎサロンが外とのつながりのよすがとなっている様子は続いている、精神的なケアという課題の重要性は変わらない。

しかしながら、この活動の継続には相応の販売を確保することが必須であり、熊本のように他の災害が起こる中、関心が三陸から他地域に移行するのも自然な流れである。「支援してもらう」だけでなく、

他地域での災害・防災と東日本大震災の経験とをつなげる役割も担うなど、「今」つながり続ける意義を感じてもらうような活動を常に意識し、情報発信をしていくことで、新たなつながりを開拓していく必要がある。

また、平成 27 年度は、拠点を復興支援センターから中野の事務所に移転させたために、団体内での連携がしづらい環境となった。多角的な被災者サポート、全国に向けた情報発信を行うためには、他チームとの連携を常に行っていきたい。

⑩ 社会事業部 時空の商店街プロジェクト

1. 事業の目的

SAVE IWATE が開発した商品の販売拡大とあわせ、支援団体や沿岸の企業の商品の販売につなげるため、もりおか町家物語館・大正蔵での販売を継続実施する。

2. 運営体制

リーダー（1名）

スタッフ（1名）

3. 活動の内容

時空の商店街内での販売

外部の販売会・商談会への出店

ネット販売など

4. 活動の成果、課題

もりおか町家物語館の存在が少しずつ定着してきたことで、売上げも増加傾向にある。ただ、全体的にはまだ十分な売上げには至っていない状況にある。復興支援商品の売上げは落ち込んできている。

⑪ 社会事業部 羅針盤プロジェクト

1. 事業の目的

震災後、国内外から送られてきた善意の支援物資の中から、着物・衣料品に特化して需要のなかつたものを利用し手仕事の技術を学びながら作品を作成している。作品は販売会での商品にもなっている。9月に鉢屋町に開館された、もりおか町家物語館の「大正蔵」にて販売する商品を作成している。参加者の収入支援をする。

2. 運営体制

（1）リーダー（1名）

（2）スタッフ（1名）

3. 活動の内容

羅針盤プロジェクトはもりおか復興支援センターのサロンと並行する形で活動をしている。

活動日は毎週火曜日～土曜日 10時から15時まで。

それぞれ自分の目標を持って作品を製作し、その中から商品になるものもある。

商品は「時空の商店街」で常設販売の他、27年度には神戸SOGO、カワトク絆フェアで販売を行った。

・参加者 13名（ほぼ毎日5～6人が参加） 1ヶ月の延べ参加者 100名

・支援ボランティア 5名 1ヶ月の延べボランティア 20名

4. 活動の成果

・読売カルチャースクール講師下田弘子さん、石見銀山群言堂社長松場登美さんが来て下さって指導を仰ぐことができた。

- ・広く呼びかけてはいないが継続してきものを送ってくださる支援者がいる。
- ・羅針盤のリメーク商品を楽しみにして下さる人が徐々に増えてきた。

<参加者の感想>

- ・サロン、羅針盤があることで毎日の目標ができ充実している
- ・一人世帯の者にとって、センターに来てみんなと話をしながら手しごとをすることが楽しみ。
- ・どのような商品が喜ばれ、買ってもらえるか考えるのが難しいけれど面白い。収入が嬉しい。



⑫ 社会事業部 三陸復興カレンダープロジェクト

1. 事業の目的

犠牲者への鎮魂と三陸の復興を願うとともに、地域の支えとなる民俗芸能や祭りをアピールすることで、地域コミュニティの再生と復興へのきっかけづくりに寄与することを目的とする。また全国の人々への啓発のためのツールとするほか、活動資金源としても期待するものである。

2. 運営体制

寺井律子、村井真…製作

関村義雄（3月退職）、金野万里、小森林厚夫、寺井良夫…販売

4. 活動の内容

例年通りの写真、情報内容で製作した。今回初めて取り組んだのは、各ページにQRコードを印刷し、Youtubeに登録されている民俗芸能や祭りの映像が簡単に見られるようにしたことである。

また、英語による解説をボランティアにより作成し、希望者に提供した。

販売方法で、今年新たに取り組んだのは、東京の紀伊國屋書店で販売したことと、NTTのネット掲載されている電話帳からメールアドレスが掲載されている事業所を抜き出してダイレクトメールを送ったことである。目立った成果はあげられなかったものの次につなげることを期待する。

製作部数 10,000 部

通常版カレンダー販売数 約 5000 部

名入れカレンダー販売数 360 部

株式会社 S 60 部

株式会社 Y 100 部
国民保養センターC 200 部
寄贈部数 3600 部（熊本支援で 2000 部）
残部 約 1000 部（うち 640 部は永代印刷で廃棄）

⑬ 山田町学習支援プロジェクト

1. 事業の目的

子どもたちが安心して遊べる場所や学習できる環境を整え、学習のサポートを通して子どもたちの居場所づくりをする。週末の勉強会やイベントの中で、様々な立場・価値観の大人とふれあうことで、子どもたちの将来に対する選択肢を増やす手伝いをする。

2. 運営体制

- (1) リーダー (1 名)
- (2) スタッフ (10 名)

3. 活動の内容

毎週土曜日に、山田町の豊間根地区と山田地区の 2ヶ所で山田町に住む子どもたちを対象として勉強会を開催。基本的に自習形式で、生徒たちには学校の宿題や受験対策の問題集などを持参してもらい、わからないところがあれば講師が教えるという形で行っている。

盛岡から山田町に通って勉強会を開催するというやり方は、かかる費用や時間が大きいことと、運営者の卒業などにより、2015 年 3 月で活動を終了した。

今後は山田町で子ども支援を行っている団体や教育委員会、学校関係者などと情報交換をする中で、イベント等、内陸からできる単発の支援活動を検討していきたい。

(2) イベントの実績 学習支援キャンプ

- 夏季 8月 1 日（土）—8月 2 日（土）
- 冬季 1月 10 日（日）—1月 11 日（月）

⑭ SAVE IWATE 事務局事業

1. 斎藤武彦教授（ドイツ・マインツ大学）の科学授業支援

第 7 回 2015. 06		
1	岩手大学附属小学校	113
2	盛岡市立山岸小学校	142
3	岩手県立盛岡第二高等学校	230
4	大槌町立吉里吉里学園小学部	28
5	大船渡市立盛小学校	22
6	大槌町立大槌小学校	66
7	釜石市立白山小学校	11
8	岩手県立釜石高等学校	182

9	久慈市立久慈小学校	200
10	久慈市立宇部小学校	20
11	久慈市立夏井小学校	20
12	久慈市立長内中学校	82
13	久慈市立宇部中学校	23
計	13 校	1,139

第 8 回 2015.11		
1	久慈市立平山小学校	38
2	久慈市立宇部中学校	10
3	吉里吉里っ子スクール（吉里吉里小）	10
4	盛岡第二高等学校	11
5	大船渡市立盛小学校	44
6	陸前高田市立高田小学校	44
7	北上市立北上南中学校	148
8	北上市立北上中学校	180
計	9 校	485

2. 漫画家ボランティア活動支援事業

日程：2015 年 10 月 10 日（土）～12 日（月・祝）ボランティア活動支援（13 名参加）

釜石市鵜住居箱崎（畠の整備・被災美容室に壁画）～もぐらんぴあ・まちなか水族館（久慈市内の小学生とお魚のお絵描き大会）～ホテルメトロポリタン盛岡（トークショー&チャリティ似顔絵大会）

参加者：しりあがり 寿・三宅 亂丈・おくやま ゆか・鈴木 みそ・まさや/かな・竹谷 州史・羽生生 純・とみさわ 昭仁・セキネ シンイチ・岩井 好典・中島 恵・竹谷 由美子・上野 アサ

5. 岩手大学復興支援授業（5 月～7 月）

講義+ボランティア活動実施（時空の商店街・和グルミプロジェクトなど）

陸前高田視察

6. HUG（避難所運営ゲーム）実施

- ・ 県内 2 年目教師研修（180 名）（岩手県教育委員会主催）
- ・ 盛岡市社協イベント（10 名）
- ・ 復興支援センター訪問中学生（20 名）

7. もりおか復興支援ネットワークへの参加

- ・ 「祈りの灯火 2016」ほか

8. 復興グッズ連携「colle-color」への参加

- ・ 「手しごと絆フェア」ほか
9. 岩手県防災ボランティア支援ネットワークへの参加
10. 岩手国体「復興写真館」プロジェクトへの参加
11. 三陸復興フォーラムへの参加（静岡市） 岩手県事業 物販等
11. 講演等の依頼への対応

2016年度 一般社団法人 SAVE IWATE 活動計画

① もりおか復興支援センター 総務チーム

1. 事業の目的

委託5事業の内容を把握し、実施のために各部署に適切な指示を行う。

また、予算管理、環境の整備、外部との調整など、もりおか復興支援センター事業の円滑な運営を行う。

2. 運営体制

- (1) チームリーダー
- (2) スタッフ（4名）

3. 活動の内容

- (1) 総務・経理
 - ・出勤簿、業務報告、休暇届、慶弔関係などの取りまとめ
 - ・社会保険等の管理
 - ・各種報告書作成
 - ・経費の管理
- (2) 窓口・電話対応
- (3) 研修等の調整
- (4) センター内の整備、管理
 - ・公開書架の管理
 - ・花壇の管理
- (5) 外部団体、関係者との交渉等

② もりおか復興支援センター 生活相談支援チーム

1. 事業の目的

盛岡に避難している被災者の生活上（食・住・職・お金・健康等）の不安や困難等を、戸別訪問、窓口相談、電話相談等を通じて把握し、一人ひとりに寄り添いながら具体的な解決を支援する。必要に応じて、各自治体、他の事業団体や各専門機関、及び地域住民と連携して解決できるように支援する。

こうした相談・支援活動を通じて、地元及び盛岡での生活再建・自立を援助し、一人ひとりが希望を持って生きていくことができる条件と地域社会づくりに貢献する。

2. 運営体制

(1) リーダー

(2) スタッフ（7名）

3. 活動計画

① 戸別訪問、窓口・電話による見守り・生活支援相談

自宅再建を果たした世帯を含めた全戸訪問（半年に1回）、みなし仮設や民間賃貸住宅等にお住まいの世帯への重点訪問（1～3カ月に1回）を行う。

なかなか会えない世帯には、電話での安否・近況確認をするとともに、在宅の日時を確認して、再訪問する。要支援世帯には優先して重点訪問を行う。

これらを通じて心身の疾患や経済的困窮等生活上の諸困難や不安の把握につとめ、よりパーソナルな支援を行い、必要に応じて、行政や専門相談機関、他支援団体と連携して解決の支援に当たる。

② 住宅・生活再建の支援相談

盛岡に避難している被災者のみなし仮設住宅の入居期限が、徐々に終わり始めていること、沿岸での災害公営住宅建設が進むとともに、盛岡を含む内陸での災害公営住宅建設の可能性が高まっていること等を踏まえ、みなし仮設や民間賃貸に住んでいて住宅の自力再建が困難な世帯を中心に、生活・住宅支援相談をパーソナルに強め、住宅確保を通じた生活再建に踏み出せるようにする。

③ 保健師等への見守り支援の依頼

独居や日中独居の高齢者、高齢者のみの世帯、及び孤立ぎみの独居の人等への保健師、民生委員、地域包括相談員による見守りや訪問・傾聴を依頼し、問題があれば連携して解決を支援する。

④ 地域における被災者見守りネットワークづくり

①～③の活動を通じて、社協、保健所、地域包括支援センター、民生委員などと連携して、地域における被災者見守りのネットワークをつくっていく。

⑤ 専門家による個別相談へのつなぎを強化

F P（ファイナンシャルプランナー）や行政書士の個別相談、財務事務所の債務問題での個別相談等を積極的に活用し、被災者の自宅再建計画の妥当性、被災した土地の処分や相続問題の処理、住まいを含む今後の生活設計、債務の処理などの解決を支援する。必要に応じて弁護士無料相談につなぐ。

⑥ ふるさとコミュニティ視察事業、及び帰還支援事業の取り組み

・被災地へのバスツアーを通じて、復興状況やまちづくりの現状を見聞するとともに、地域コミュニティとの交流によってふるさととのつながりを持ち続けられるようにする。また、視察を通じて被災者のふるさとへの帰還を支援していく。

昨年の「ふるさとバス」の成果を活かし、地元の行政や社協等との連携を活かして取り組む。
・引き続き、福島県の被災者に、放射線の健康影響や食の安全、避難指示解除と復興・まちづくりの現状等についての正確な情報提供等の活動を行う。これを通じて、帰還・定住・移住を判断

する材料を提供する。

⑦ 社会的孤立を防ぎ、市民との交流や地域とのつながりをサポートする

・復興雑巾、お茶会、カラオケサークルなどへの参加を促し、孤立感の払しょく、市民との交流等を支援する。

・畠作業への参加による市民との交流、居場所や生きがいづくり、自己有用感の獲得、リフレッシュ、就労準備等を支援する。

・地域のサークルやボランティア活動を紹介し、地域での新たな人とのつながりと溶け込み、社会参加を支援する。

⑧ 研修会の開催・参加

「盛岡市くらしの相談支援室」（発足の意義と活動内容について）、生活福祉課（生活保護、及び困窮家庭の子ども学習支援について）を始め、生活支援相談に役立つ研修会を開催、あるいは他団体の研修会に参加し、相談員のスキルアップを図る。

⑨ 生活支援相談員のメンタルケア（専門家によるカウンセリングなどを検討）

⑩ その他、本事業の目的を達成するために必要と認められる活動を行う。

③ もりおか復興支援センター サークル・サロンチーム

1. 事業の目的

○事業1. 盛岡市住宅・生活再建相談支援事業

東日本大震災による被災者のうち、盛岡市内の避難者の生活再建に向けた相談を、主に窓口やサークル・サロン活動を通じて受け、専門的な相談窓口、支援制度などの有益な情報を提供する。

○事業2. 被災者間交流促進事業

盛岡市内の避難者同士、また、既存の盛岡市民との交流を促進し、避難者が盛岡市内に孤立化を防ぐ。

○事業3. ふるさとコミュニティ視察事業

盛岡市内の避難者に沿岸のコミュニティの復興状況を視察してもらい、地元住民との交流の場を設けることで、内陸避難者と沿岸住民との紐帯を保つ。

2. 運営体制

- (1) リーダー (1名)
- (2) スタッフ (3名)
- (3) コア・ボランティア (8名)
- (4) その他外部協力者

岩手看護協会・日本折り紙協会岩手支部さくら会・岩手看護短期大学・東北大学・人権擁護委員・盛岡市西部公民館・盛岡ボードゲームクラブ・岩手ビッグブルズ

3. 活動計画

- ・避難者同士が共通の趣味を楽しむ場であったサークル活動から一歩進め、一般市民のボランティアと避難者がともに、主体的にサークル活動を運営し、避難者と一般の盛岡市民との交流と協業の場としていけるようサポートする。また、すでに囲碁・将棋サークルで見られるような、ボランティアとしてではない、一参加者として一般市民を受け入れ、盛岡での交遊関係を広げる場としていく。
- ・これまで高齢者に偏りがちだったサークル・サロン参加者から、さらに幅広い年齢層に、盛岡市民との交流の場を設けるため、中年層・青年層・子どもを対象にしたサークル・サロン活動も新規に立ち上げる。
- ・昨年「浜のお母さんの料理教室」として実施したように、避難者から盛岡市民に向けて沿岸の文化、伝統、歴史を伝える場を設ける。一方で、避難者に盛岡の地理、生活情報、文化を盛岡市民側から教える場を設け、教え教わり合う関係を築く。

●平成28年度サークル・サロン活動

○定例お茶っこ飲み会

【実施日時】毎週土曜日 10：30～11：30

【実施会場】もりおか復興支援センター

【活動方針】

平成27年度から行っている手作りおやつの試みを継続、従来のレクリエーション協会の軽体操、ゲームとともに、避難者の関心を呼び込む。もりおか絆の会の中核となるサロンであり、絆の会とセンターとの連携の場としても活用する。

○地域別お茶っこ飲み会

①地域【釜石市・山田町・宮古市・岩泉町・田野畠村・普代村・野田村
・久慈市・洋野町・盛岡市・滝沢市・矢巾町・紫波町】

②地域【大船渡市・陸前高田市・宮城県・福島県】

③地域【大槌町】

【実施日時】①毎月第2木曜日 ②毎月第3木曜日 ④毎月第4木曜日

【実施会場】もりおか復興支援センター

【活動方針】

同郷出身者同士が集まる場として維持する。参加者が固定されている傾向にあるので、未参加の方から関心を呼びめるよう、地域の情報を伝える、地域からゲストを招くなど工夫をする。

○手芸サークル

【実施日時】毎週火曜日～土曜日 10：00～15：00

【実施会場】もりおか復興支援センター

【活動方針】

もともと、常時講師がいるサークルではないが、参加者からは新しい作品の製法を学びたいとの声が根強い。ボランティアの募集を行って講師を確保する。

○囲碁・将棋サークル

【実施日時】毎週水曜日 13：00～16：00

毎週土曜日 10：00～12：00

【実施会場】もりおか復興支援センター

【活動方針】

参加者中、避難者の数が少ない。センターから離れた地域で出張碁会を開くなどして、関心を呼び込みたい。

○折り紙サークル

【実施日時】毎月第2火曜日 10：00

【実施会場】もりおか復興支援センター

【活動方針】

平成28年10月をもって活動を終了する。参加者が折り紙を趣味として続けられるよう、1月以降はさくら会主催の定期講座を案内する。

○カラオケサークル

【実施日時】毎月第4木曜日 13：00～16：00

【実施会場】市内大通りのカラオケ店

【活動方針】

より活動の自主性を高めていただくため、運営をサポートできるボランティアを追加で募集、スムーズに本格的な自主活動への移行を促す。

○写真俱乐部

【実施日時】不定期

【実施会場】もりおか復興支援センター

【活動方針】

これまで通り、自主的な活動を継続しながら、ボランティアを通して参加者的心身等の状況を把握する。

●新規サークルの立ち上げ

平成27年度末にコア・ボランティアを交えて話し合いを持ち、新規サークル・サロン活動として、下記のものが案出された。

○幅広い年齢層の関心を呼び込むため

- ・ジャズなどの音楽イベント・飲食会・スポーツ観戦・ボードゲーム会・落語・演芸

○教え教わり合う場として

- ・盛岡市内での見学体験型ウォーキング・もりおか言葉講座・沿岸の芸能を観る
- ・盛岡市民が沿岸の伝統や文化を知る講座

●ふるさとコミュニティバス

【概要】

年間12回、避難者を沿岸地域へバスで送迎し、復興状況の視察と地域住民との交流を行う。目的地は陸前高田市・大船渡市・釜石市・大槌町・山田町・宮古市の6市町とし、各市町へ2回ずつ訪れる。

1回は復興状況の視察を中心に行い、もう1回は地域住民との交流を中心に行う。

地元の行政、社会福祉協議会の協力を得て、視察では現地ならではの詳細な解説を行っていただき、交流の場として地域の茶話会やイベントへつないでいただく。

④ もりおか復興支援センター しえあハート村チーム

1. 事業の目的

盛岡市において行われる震災記憶の風化防止の取組や、市が設置する復興支援学生寮に入居している被災学生が震災復興に寄与する人材に成長する姿を情報発信することで、復興推進の機運を高め、震災記憶の風化を防止することを目的とする。

2. 運営体制

- (1) リーダー
- (2) スタッフ（1名）

3. 活動計画

- (1) 映像作品や紙媒体を活用した情報発信
映像作品・紙媒体 各6回
- (2) しえあハート村倉庫壁面を使った絵画によるメッセージ発信
- (3) 入居学生の生活相談、見守りを行う。
- (4) 「11日の灯り」活動 東日本大震災月命日の11日に灯りを灯す。
- (5) しえあハート村「村会議」を運営する。毎月第4木曜日
- (6) しえあハート村敷地内の環境整備とセンターハウスの管理を行う。
- (7) しえあハート村入居者と協力してイベント等を行う。

⑤ 東京事業部 岩手もりおか復興ステーション

1. 事業の目的

「岩手と東京をつなぐ」ステーションを目指す。

地域、コンテンツ、人と岩手を多角的にとらえ、つなげていく。岩手ファンの更なる育成・獲得する。

2. 運営体制

- (1) リーダー

- (2) スタッフ（2名）
- (3) その他サポーター

3. 活動計画

① 郷土芸能を通した関係人口づくり

祭り・郷土芸能をテーマとして魅力あふれる関わりを創出します！

岩手県内に1,200以上もの団体が存在するほど、地域の人々にとって身近で大事にされてきている祭り・芸能を首都圏の人（出身者含む）へ発信し、関わりを創出します。

参加者は「ただ見る」だけでなく、「体験する」、「祭りに参加する」と段階を踏みながらそれぞれが地域に馴染むようフォローする。

また、受入側の各団体も継続して受け入れてもらうよう体制を整えてもらい、持続可能な関わり合いづくりを双方にて推進する。

◆企画スケジュール

6月 26日（日）	鵜住居虎舞ワークショップ@東京（予定）
7月 30日～8月 1日	郷土芸能堪能ツアー（鵜住居虎舞、吉里吉里大神楽、早池峰神楽）
8月 6日（土）	鵜住居虎舞公演
8月 20日～21日	吉里吉里大神楽 祭りツアー
9月上旬	鵜住居祭り参加のためのワークショップ@東京
9月 24日～25日	鵜住居祭り参加ツアー

② イベント・企画のマッチング及びサポート

首都圏で開催される各イベントへの出店者や人材のコーディネートを実施。

また岩手県内への仕事のマッチングなど（手仕事、卸 etc…）

- ・6/25 声誕祭@北千住

- ・7月、8月、10月の祭り@与野

③ ふるさと会・移住定住サポート

各ふるさと会への参加や各種企画・コーディネートを請け負う。

- ・6/5 岩手県人連合会 出席

- ・7/9 ふるさと回帰支援センター主催 移住ワークショップ トークセッション参加

④ 首都圏における関係各所の連携促進

岩手県東京事務所主催による「岩手県関連機関情報交換会」への出席や各所の連携促進を行い、情報の集約に尽力する。

⑤ 岩手ファン育成・獲得のための活動

小さな交流会の実施やイベント出演などといった情報発信など。

- ・岩手わかすフェス（秋～冬）

⑥ ツアーの強化

着地型観光を推進するトラベル・リンクと連携し、岩手を観光視点で楽しむ人の増加に向け発信や企画サポートなどを行う。

また千代田区観光協会と連携し2地域観光促進の可能性を探る。

⑥ 社会事業部 総務チーム

1. 事業の目的

社会事業部全体の連絡、調整を行う。

2. 運営体制（和グルミプロジェクトスタッフと兼務）

リーダー

スタッフ（1名）

3. 活動計画

- ・社会事業部活動について、もりおか復興支援センター総務と連携して行う。
- ・社会事業部会議を企画し、運営する。

⑦ 社会事業部 和グルミプロジェクト

1. 事業の目的

和グルミプロジェクトを復興に寄与する産業として確立するよう、原材料の安定確保と複数年貯蔵するための条件整備、殻むき加工作業の効率化、高収益の商品開発、商品知名度の向上、和グルミ食の普及、安定した販路の確保に取り組む。

2. 運営体制

(1) リーダー

(2) スタッフ（4名）

(3) その他外部協力者（1名）

むき実作業は野田村の根井地区のおばあさん方に委託するほか、福祉作業所にも委託予定
くるみのおさけ（赤武酒造）、たれ（浅沼醤油店）は製造委託

3. 活動計画

(1) 目標、収支見通し

年間の収支を少しでもプラスにすることを目標とする。売上げは前年度より約300万円の増を見込むほか、経費の増加をできるだけ抑制することで、20万円の黒字を見込む。

(2) 活動

①菓子製造免許

中野本部の1階作業場所の厨房設備を整備し、菓子製造免許を取得したところである。

今後は、くるみのおさけ用の原料は自社製造する。ソフトクリーム用の原料となるペーストについても自社製造に移行できるよう、加工機械の導入を計画する。

また、和グルミを使った菓子やパンなどを加工製造するための試験研究に取り組み、年度後半には販売できるようにする。

② 営業活動

むき実、殻付きの消費者向け小口販売を拡大するため、首都圏などの小売店や生協などに対して営業活動を行う。あわせて、パッケージデザインについても、バーコードの印刷を含めて改良に取り組む。

③ 買い取り

秋までの販売状況に応じた買い取り数量となるが、昨秋から若干拡大して、14トン350万円程度を見込む。

⑧ かごプロジェクト

1. 事業の目的

被災者の方々の手しごと機会を創出し、生きがいのある暮らしを送っていただくことができるようとする。とくに高齢男性にむいた手しごととして、オニグルミの樹皮を使ったカゴ細工に取り組み、販売による収入支援にもつなげる。

2. 運営体制

カゴ製作（4名）

樹皮採取アルバイト（2名）

ボランティア（2名）

3. 活動計画

（1）目標

良質な材料を一定量確保すること、カゴを100個製作すること、首都圏・全国に向けて販売展開することを目標とする。

（2）計画

カゴ細工希望者がいれば1～2名受け入れたい。

岩手町の牧場（オニグルミ樹皮）、外山ダム周辺（ヤマブドウ）で樹皮採取する。

根田茂地区でのオニグルミ栽培を継続する。

三井物産の助成金により道具類を充実する。

⑨ 社会事業部 復興ぞうきんプロジェクト・紡ぎ組

1. 事業の目的

被災者の方々が元気を出し、前（未来）を向いて立ち上がる小さなきっかけとなることを目的として活動。縫い手さん達が仕上げたぞうきんは、全てが異なる作品であり、思いがあふれる

メッセージカードとなることから、材料の提供や購入を通して支援者と縫い手さんの想いが結ばれ、被災者への支援が継続する事業となっており、販売だけでなく情報発信にも力を入れる。

2. 運営体制

- (1) リーダー
- (2) スタッフ（2名）
- (3) コア・ボランティア（3名）

3. 活動計画

(1) 紡ぎサロンの開催（復興ぞうきんの買取・包装作業を含む）

- ・岩手県公会堂(第1・3水曜日)
- ・鉢屋町新番屋(第1・3金曜日)
- ・宮古市社協(毎月最終水曜日) 毎月計5回×12ヶ月=計60回

(2) 復興ぞうきんの製作・販売

<製作・販売目標>通常版6,000枚／チケット5,000組

<目標達成に向けた販促活動>

- ・H27年度に法事用等で堅調だった仏教寺院向けにDM発送
- ・幼稚園・学校への寄付活動としての需要を探る
- ・タオルを粗品として使用している業界(不動産や工事関係など)の企業に営業活動を行う。
- ・その他、スタッフおよびコア・ボランティアで状況に応じ検討・実行していく。

(3) 復興ぞうきんの材料募集

- ・材料募集チラシ配布
- ・ネットでの募集（ブログ/Facebook/ツイッター等）
- ・前述の販促活動と一緒に、可能な限り材料募集の案内も行う。

*現在特定の支援者の提供に頼っているぶちのタオルの確保が課題

(4) つながるサポーター「ZUTTO」募集・維持

- ・募集案内チラシ配布
- ・1口5,000円。目標120口60万円のZUTTO金獲得。
- ・サポーター向けDM「ZUTTO便」の毎月送付
- ・サポーター向け大正蔵とのコラボ商品の販売
- ・サポーター向け三陸沿岸ツアーの企画・実施

*縫い手さんとの交流を盛り込み、復興ぞうきんでつながっている縁をきっかけとして、実際に沿岸に足を運び、三陸の魅力や実際の復興の様子を知ってもらう機会につなげたい。

⑩ 社会事業部 時空の商店街プロジェクト

1. 事業の目的

SAVE IWATE が開発した商品の販売拡大とあわせ、支援団体や沿岸の企業の商品の販売につなげるため、もりおか町家物語館・大正蔵での販売を継続実施する。

2. 運営体制

- (1) リーダー
- (2) スタッフ（3名）
- (3) コア・ボランティア（2名）

3. 活動計画

主力商品のソフトクリームについてバリエーションを増やす（ヤマブドウ味）。

羅針盤、クルミカゴなど高額商品を増やす。

沿岸の物産のなかから新しい人気商品を発掘する。

E C ショップの出品数を増やす。

カワトクでの絆フェア、各種イベントへ出店する。

⑪ 社会事業部 羅針盤プロジェクト

1. 事業の目的

震災後、国内外から送られてきた善意の支援物資の中から、着物・衣料品に特化して需要のなかったものを利用し手仕事の技術を学びながら作品を作成している。作品は販売会での商品にもなっている。もりおか町家物語館の「時空の商店街」にて販売する商品を作成している。参加者の収入支援をする。

2. 運営体制

- (1) リーダー
- (2) スタッフ（1名）

3. 活動計画

- ・それぞれの得意を生かして活動を継続する。
- ・多くの方に声をかけて参加していただく。
- ・シンプルで上質なきものリメークを目指す。
- ・商品価値を高め、衣類については高額商品を製作していく。
- ・首都圏、関西等でのイベントに積極的に参加する。

⑫ 社会事業部 三陸復興カレンダープロジェクト

1. 事業の目的

犠牲者への鎮魂と三陸の復興を願うとともに、地域の支えとなる民俗芸能や祭りをアピールすることで、地域コミュニティの再生と復興へのきっかけづくりに寄与することを目的とする。また全国の人々への啓発のためのツールとするほか、活動資金源としても期待するものである。

2. 運営体制

製作（2名）

販売（3名）

3. 活動内容・計画

(1) 目標

1万部を製作し、完売をめざす。

(2) 営業

SAVE IWATE のスタッフ各自のこれまでの人的ネットワークを活用し、販路を拡大する。

県内での新たな委託販売先を開拓する。（9月～10月）

出版二大取次であるトーハン、日本出版販売に対して営業し、卸し販売につなげる。（7～8月）

これまでつながりのある企業に対して、名入れの営業を行う。（7～8月）

表紙と営業用資料は6月中に製作する。

⑬ SAVE IWATE 事務局事業

1. 事業の目的

SAVE IWATE の職員と各事業を管理、統括する。被災地、被災者の現状と、社会の被災地に対する意識等を把握し、必要な活動を行うための企画と調整を行う。国や行政、各団体、企業等との交渉を行い、SAVE IWATE の円滑な活動のための調整を行う。

2. 運営体制

理事長 : 寺井良夫

副理事長 : 渡辺敏男

事務局長 : 金野万里

事務局次長 : 北田耕嗣

3. 活動内容・計画

（1）SAVE IWATE の職員の管理と統括を行う。

- ・人事に関する管理と統括
- ・業務命令の発令と管理

（2）SAVE IWATE の各事業の管理と統括を行う。

- ・会議の準備と調整
- ・報告書の取りまとめと作成

（3）被災地、被災者の状況、復興に関する情報の収集を行う。

（4）外部団体等との連携を行う。

（5）災害等が起こった際は情報収集を行い、必要な場合はボアンティア派遣を行う。

（6）新事業の企画と調整

- ① 助成金、補助金等への応募を行う。

② 今年度計画中の事業（前年度からの継続も含む）

- ・ 斎藤武彦教授（ドイツ・マインツ大学）の科学授業支援（6月/11月予定）
- ・ 漫画家ボランティア活動支援事業（いわてマンガプロジェクトへの協力）
- ・ HUG（避難所運営ゲーム）実施
- ・ もりおか復興支援ネットワークへの参加「祈りの灯火 2016」ほか
- ・ 復興グッズ連携「colle-color」への参加「手しごと絆フェア」ほか
- ・ 岩手県防災ボランティア支援ネットワークへの参加
- ・ 岩手国体「復興写真館」プロジェクトへの参加
- ・ 講演等の依頼への対応
- ・ SAVE IWATE の活動の記録をまとめたための調整を行う。
- ・ SAVE IWATE の活動と被災地、被災者の現状等を内外に発信するための調整を行う。

（7）提案活動

被災者を含む諸困難を抱えた人々が希望を持って生きていける地域社会づくりへの貢献・被災者、被災地支援で見えてきた被災者支援法をはじめとする既存の法制度の限界、弱点、欠陥を検証し、市・県、沿岸自治体、専門機関、N P O、弁護士、有識者、議員等と連携して、その運用の改善、制度改革、法改正・新法制定等に寄与する。